

2013年残雪期の会津駒ヶ岳(2132m)山行記録



駒の小屋と会津駒ヶ岳(2013.5.12)

期日：2013年5月10日～13日

メンバー：L鈴木輝明、大和義孝(記録)

コースタイム:

5月10日(金) 晴れ

大和宅 4:30=横浜新道=第2京浜=環七=5:20 輝さん宅 5:30=谷原 6:47=大泉IC6:55=外環道=川口JCT=浦和料金所 7:11=7:25 蓮田SA7:40=西那須野塩原IC9:00=9:50 道の駅たじま 10:05=中山峠 10:23=11:00 木賊温泉(とくさおんせん)11:50=12:15 桧枝岐村民宿「こまどり」(泊)

5月11日(土) 曇りのち雨

民宿「こまどり」6:50=滝沢登山口駐車場 7:00=登山口 7:05=7:43 休憩 8:00=8:52 休憩 9:00=9:48 休憩 10:10=11:00 駒の小屋(泊)

5月12日(日) 晴れ

駒の小屋 7:45=8:05 会津駒ヶ岳頂上 8:10=8:50 中門岳(2060m)9:35=10:25 会津駒ヶ岳頂上 10:40=11:00 駒の小屋 11:30=12:10 休憩 12:25=登山口 13:20=近道出口 13:36=13:50 民宿「こまどり」(泊)

5月13日(月) 晴れ

民宿「こまどり」4:55=道の駅たじま 5:53=西那須野塩原IC=東北道=6:50 上河内SA7:35=8:30 蓮田SA 8:50=浦和料金所 8:58=大泉IC9:03=11:10 鈴木宅 11:30=12:15 大和宅

記 録:

5月10日(金)晴

大和車で自宅を4:30に出発、横浜新道、第2京浜国道、環七を経て平日の為か順調に黄色い車が目印の輝さん宅に着く、大和車を輝さん宅の駐車場に入れ、輝さん車に乗り換えて出かける。環八に出て5:30頃起きた事故渋滞に嵌り1時間ぐらいの遅れで外環道大泉ICに入る、川口JCTから東北道に入り蓮田SAで休憩する。東北道は西那須野塩原ICで降り400号道路に出る、この沿道にはツツジが満開で千本松牧場が有り牧歌的な道である、暫くすると山間の道になり塩原をすぎ道の駅たじまで休憩、ここは山菜の店が多く出ている。滝の原から山中峠を通り352号道路に出る。



木賊温泉の駐車場



木賊温泉 岩風呂

時間が早いので輝さんが嘗て行ったことが有ると言う木賊温泉(とくさおんせん)の岩風呂に寄って行くことにする、沼田街道に出る5,6km手前を左折し木賊温泉に11時に着く。車を駐車場に置き岩風呂を探す、駐車場から車道を上に2,3分ぐらい歩いた所に標識があり、そこから細い道を河原に向かい降りてゆくと河原の脇にトタン屋根の風呂が有る。管理人は居ないが一人200円を徴収箱に入れ入る。ここは混浴で脱衣所は女性は物置風の部屋が有るが男性は岩風呂の前に棚が有りそこに服を置く。すでに入浴者は3人おり1人はご婦人であった、岩風呂は畳2畳ほどの大きさのものが2つ有り綺麗に清掃され、湯は無色透明である。30分程して湯をでて散策する、道路挟んだ駐車場の前にも共同浴場「広瀬の湯」が有るが入浴時間が14:30~19:30なので入れなかった。

木賊温泉温泉から飯豊桧枝岐大規模林道を通り桧枝岐に行く予定で川沿いの道を上に向かって走ると通行止めになって、元来た道を引き返し352号道路にでる。沼田街道にぶつかり左折し桧枝岐に向かう、桧枝岐村に入り駒ヶ岳登山口手前右側に今日の宿、民宿「おまどり」が有り入る12:15である。



樋の湯



桧枝岐川の桜



会津駒ヶ岳川の新緑



会津駒ヶ岳の登山口

15:00 頃着く予定が余りにも早く着き、夕食は 18:00 と言う事で民宿で無料の入浴パスを借り会津村を車で散策する。まず、昼食に「まる家」で会津名物「裁ちそば」を食べる。「裁ちそば」とは、つなぎを使用しない生そばを 2mmほどの厚さに伸ばし何枚か重ね、手を定規の様に布を裁つように包丁を手前に引いて切ることからその名が付けられたとの事、味はいつも食べているそばと余り変わらなかった。次に「燧の湯」に行き入る。湯は無色透明で、うち風呂と露天風呂が有り、大きさは両方とも一度に 2,30 人が入れる程の大きな風呂である。露天風呂からはすぐ下に川が流れ、新緑と桜の眺めが良い。一風呂浴びた後は明日の夕食のすき焼きの牛肉を買いに農協マーケット行くが牛肉はなく、仕方なく豚肉を買う、まだ時間が有るので車で滝沢登山口まで行く、道路から沢沿いに 10 分程登ると駐車場が有りそこから先は車の通行禁止である、そこから 3,4 分歩くと階段の有る登山口である。記念写真を撮り、宿に引き返す、宿に 17:00 頃戻る。一休みし、18:00 夕飯で山菜の天ぷら、岩魚の塩焼き等、山里の料理が美味しかった。宿泊客は我々以外に乗合バスの運転手が 1 人で、計 3 人である。

5月11日(土)曇りのち雨

今日の天気は予報では 1mm/h の雨で有るが朝は雲の合間から薄日の射す天気で午前中は持ちそうなので出発する事にする。



民宿「こまどり」の前で



食事は 5:45 からである、食後、宿の車で登山口まで送ってくれると言う。自分たちの車は宿に置く事にし車から荷物を取出し準備をしていると、宿の主人が出てきて宿をバックに記念写真を撮ってくれる、6:50 宿の車で宿を出発、352 号線に出、滝沢橋の手前を右折し、少し沢沿いに走りその後、沢と離れジグザグに登り滝沢登山口駐車場に 7:00 着く、2,3 台の車が停まっていた。宿の主人と別れ、5 分程で登山口に到着、山行計画書を計画書投入箱に入れ、急な木造の階段を、30m 上る。この辺りに雪はまだなくカラマツ林の中に道が出ている、急な斜面のジグザグの道を 40 分程登ると雪が出てくる。



急な斜面を登る 鈴木



と 大和



傾斜が緩やかになった尾根状の所で休憩



シラビソの木が多くなり登って来た後を振り返る



若い男女が登ってくる



シラビソも疎らになる左上が小屋、中央が駒ヶ岳

そこで休憩しスパッツを着ける、そこから10分程は夏道と雪道が交互に有り歩き難い、暫くして雪だけとなり歩きやすくなる、雪は少し腐っている程度で歩き易い、岳樺の木々の間にある踏み跡と木に付けられた標識を目当てに登る。登り始めてから1時間半程で尾根状の所に出る、尾根状の高いところを真直ぐに登る、先行する4人のパーティーに追いつく、暫くす



小屋方面から 15,6 人の高校生の団体が下ってくる



小屋近くで大和 後方の山が駒ヶ岳

ると傾斜もゆるくなり、休憩をとる、汗でびしょ濡れとなった下着をとり、上着だけとなる。下から若い男女2人のパーティが登って来て追い越してゆく若い人は元気が良い、聞けば今日は小屋泊で今晚は一緒になるとの事。この辺りになるとシラビソの木が出てくる、暫く歩くと木が少なくなり、周りが開けてくる。小屋直下まで来ると上から15、6人位の高校生と思われる集団が勢いよく降りてくる。小屋はもうすぐである、この辺りの稜線上には殆ど木がなく一面雪で覆われている積雪はまだ3、4mぐらいは有りそうだ。11時に小屋に着く、雨がぱらぱら降りだしてくる、小屋付近にはボーダー1人、スキヤー3人がいた。ザックを小屋において非常食だけ持って駒ヶ岳頂上まで行こうと準備をしていたが大和はサブザックを持ってこなかったもので、輝さんのナップザックに入れて貰う、当初予定では今日中に駒ヶ岳頂上から中門岳に行き、引き返して小屋に泊まり、明日は富士見林道を通して大津岐峠に出てキリンテに降りる予定で有ったが、富士見林道は未だ雪に覆われており、そこへの踏み跡もなく、稜線(富士見林道)は雪がずたずたに切れており、キリンテに降りるのは諦めた。その内雨風がひどくなり視界が悪くなってきたし、キリンテに行くのも中止したので、明日駒ヶ岳頂上へ行く事にし今日の頂上行は諦めた。暫くして先行した若い男女2人が頂上から戻ってきた、この2人は小屋どまりで明日は三岩岳へ行く予定との事である。また、自分たちが追い越した4人組も上がってきて頂上へと向かう、彼らは日帰りである。



小屋の炊事場兼食堂で左から3人目から鈴木、大和



小屋の主 御夫妻

我々は昼食を摂ったりして暫く小屋の外にいたが雨が酷くなってきたので、小屋に入る。小屋に入るとおかみさんが小

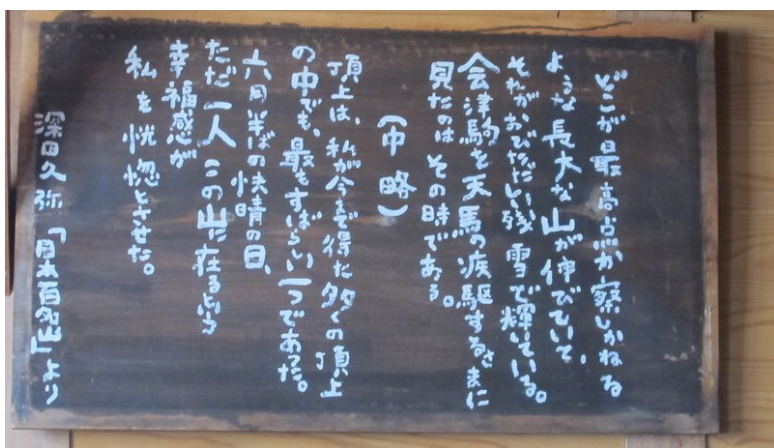
屋の生活ルールを説明してくれる。小屋泊まりに慣れていない我々は助かる。先ず、2階に行って自分たちの寝る場所と布団を割り当ててもらい、2、3時間そこで横になる。



懐かしいランプの下での談笑

小屋は予約制で寝具はあるが食事ははなく、自炊である。30人収容できるそうで、桧枝岐村から小屋を借り山好きのご夫婦2人で運営している。1階に炊事場兼食堂、2階が寝室、1階から2階に行く途中の踊り場がザックの置き場になっている。トイレは小屋の外に有り立派な建物である。また、小屋には発電機は無く、ランプの宿である。15:30頃1階に降り夕食の支度を始める、生米からご飯を炊き、すき焼きを作り、生卵に付けて食べる大変美味しかった。16:00頃になると泊り客が集まり夕食の支度を各グループ毎にはじめる。単独行の2人からそれぞれ肉料理を作り皆に振る舞ってくれた、大変美味しかった。小屋の主人も交えて酒を酌み交わしながら談笑する。お客さんは我々2人、リタイアしたバックカントリスキヤーが3人、中年の男女2人、若い男女4人、単独行の中年男2人の計13人である。

酒を酌み交わしながら話題は東北の山々、北アルプス、ヒマラヤ等の山行の話や山での料理の話など多岐にわたり談笑は20:00頃まで続いた。自分はテントで泊まる事が多いのでいつも仲間うちでの話ばかりで有るがこの様な見知らぬ方々の話を聞くことが出来大変参考になり、刺激にもなり楽しい時間であった。



小屋の壁に架かって居る額

5月12日(日)晴



駒ヶ岳を過ぎ中門岳へ、突然左雲の上に燧岳が現れる



前方は頂きが広い中門岳

朝 5:30 起床し、6:30頃には食事も終わる、外はガスに覆われているが天気予報では晴れるとの事なので晴れるのを待つ。7:00 過ぎになるとガスが上がり始める、バックカントリスキヤーが小屋を出て行く、自分たちも支度をして 7:45 小屋を出る、時々青空が見えるようになる。ツボ足で歩くが雪は適度に締まって歩き易い、小屋を出て 20 分程で駒ヶ岳頂上に着く、見晴は良いが時々ガスで覆われる。中門岳に向かって下る、踏み跡はないがガスが晴れると中門岳までの広い稜線がハッキリと見通せる、中門岳の中ほど迄行くと、左側の雲の上に突然燧岳の頭が見えすぐに雲の中に消える。



中門岳で大休止



中門岳から駒ヶ岳を望む



駒ヶ岳の頂上で鈴木、大和

8:50 頃、中門岳に着く、ここは平らな広っぱに成っており山の頂上とは思えない、夏は池が出来ているが、今は中門岳の標識も隠れているので積雪は2から 3mぐらいか？、風が強いので風下に少し下って大休止する、お湯を沸かしコーヒーを飲み、春山の景色の素晴らしさを堪能する。40 分程休み引き返す、暫く歩くと休憩していた小屋に泊まった中年の男女に会う、朝天気が悪かったので三岩岳に行くのは諦め中門岳に来たとの事、後学の為三岩岳の方向を聞く、三岩岳は積雪期でないと行けないとの事。緩やかな上りを登ると駒の頂上である、写真を撮っていると、先ほど会った男女が上



駒ヶ岳頂上より北東方面の三岩岳を望む

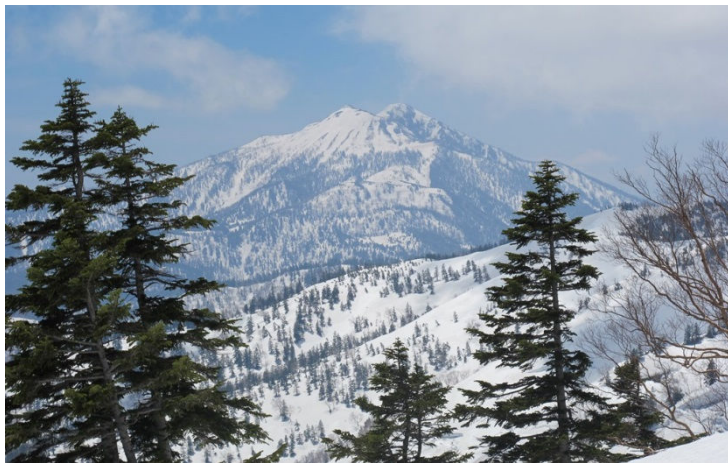


頂上より南西の小屋方面を望む

がってくる、記念写真を撮って貰う、男女はすぐ小屋に向かって下り始める、我々は暫く景色を堪能した後小屋に向かつてのんびり下る。小屋に 11:00 に着く、小屋には入らずその周りをブラブラしながら大津岐峠へ行く稜線に出るルートを探る、写真を撮る等、残雪期の山の景色を楽しんだ後昼食を摂り、11:30 下り始める。小屋から森林帯に入るまでは広い稜線なので 3,40mくらい置きにポールが立っているのでポールに沿って下る。森林帯に少し入った所で右側に木々の間からガスの晴間に燧岳が見える。それから暫く歩き休憩していると、上から小屋の主人とお客1人が一緒になって降りてきて我々を抜いて行く、森林帯の中の踏み跡を頼りに、時々滑りながら下って行くと、小屋の主人等が休んでいる、追い抜き急な斜面が出てきてそれが終わると雪が無くなり夏道になる、沢の水音が聞こえてくる、木の階段を下り、登山入口に着く、そこから車道を歩き駐車場を通り過ぎ 2、3 分の所を右に入り徒歩の近道に入る、ジグザグ道を 10 分ほど下ると近道は終わり再び車道に出る、車道を歩いていると宿の主人等が車で追い越してゆく。15分程車道を歩き 13:50 に民宿「こまどり」に着く。



小屋近くから見た富士見林道の尾根



小屋から 20 分位下ると右手に燧岳が見えた

当初予定では直ちに帰る予定で有ったが、偶然にも今日の午後7時から桧枝岐歌舞伎が上演されるとの事、この歌舞伎は年に3回(5月12日、8月18日、9月第 1 土曜日)しか上演されない。輝さんは明日夜勤なので明日の午前中に家に着けば良いとの事で、歌舞伎を見るために急遽1泊し、明日早朝に帰途する事にした。歌舞伎を見るため夕食は 17:30 からである。まだ時間が大分あるので、入浴パスを借り温泉めぐりをする。初めに民宿より川下に有る「アルザ尾瀬の郷」に行く、ここは温水プールと温泉があり、ここの露天風呂は大きく岩で風呂が仕切られており、露天風呂の直ぐ脇には新緑の白樺が有り庭園の様な風呂である。次に民宿より川上に有る「駒の湯」に行く入る、桧枝岐川の左岸にあり露天風呂から対岸の山の新緑が素晴らしい。温泉を堪能し 16:30 頃民宿に戻る、夕食まで部屋で休憩する。



アルザ尾瀬の郷



駒の湯

17:30 夕食の為、広間に行くと泊り客が 10 人程の客がおり、全員、桜枝岐歌舞伎を見るための宿泊らしい。夕食後、希望者は歌舞伎舞台前まで、宿の車で送ってくれると言う事で我々は送って貰う。宿から車で 5 分ぐらいである。18:20 頃着く、歌舞伎舞台は車道から参道を 50m ぐらい入った所に有り、参道は幟や屋上で埋め尽くされている、舞台は国指定重要有形民俗文化財で山(愛宕神社)人に向かって建てられ、神社に向かう階段が観覧席である。入口で簡単な座布団を借り、我々は舞台に向かって右側の下から 4 段ぐらいの場所に座る。舞台の前の方には駒の小屋の主人も見ていた、舞台の周りには寄付金のピラが貼られ、寄付者の名前も読み上げられる、駒の小屋も寄付していた。



石段の客席ほぼ満杯である



歌舞伎舞台



歌舞伎の一場面

19:00 に開演である、来たときは薄明るかったが、もう真っ暗である、舞台の照明だけが明るい。名士の挨拶の後、舞台お浄めの舞、次に愛宕神奉納歌舞伎(今回は「鎌倉三代記 三浦割れの段」)が演じられた、この歌舞伎は福島県の重要無形文化財である。筋書きはよく分からないが昔の農民に思いを馳せ、幽玄な舞台に見入り、雰囲気を楽しむ。20:30 位まで見ていたが寒く成ってきたので中座する。

参道に有る「歌舞伎伝承館千葉家」に入り歌舞伎の展示品を見て宿に徒歩で戻る、宿までは徒歩で20分ぐらいである。

5月13日(月)晴

朝 4:00 に起床し、朝食は取らず 4:55 民宿「こまどり」を発つ、天気は晴れで気持ちが良い、車には殆ど会わず、西那須野塩原ICより東北道に入り上河内SAで朝食を摂り、お土産など買う。蓮田SAで休憩し、外環大泉IC経由で環状 7 号線に入り輝さん宅に向かう、通常なら大泉ICから輝さん宅まで1時間位で行けるが事故渋滞に嵌り2時間程かかり 11:10 に着く。輝さん宅で自分の車に乗り換え自宅に12:15 無事に着く。

行き帰りとも輝さんに運転してもらい、申し訳ありませんでした。輝さんお疲れ様。

残雪期の春山が堪能でき、また、270 年の伝統のある歌舞伎が見られ楽しい山行でした。